



第 47 回 JSiSE 全国大会のご案内

担当者： 全国大会委員会

テーマ：ニューノーマル時代のインクルーシブ教育を支える教育・学習支援技術

<https://taikai2022.jsise.org/>

- 開催日時： 2022年8月24日(水)～8月26日(金)
- 会 場： 新潟工科大学 / オンライン (ハイブリッド開催)
※変更の可能性あり
- 主 催： 一般社団法人教育システム情報学会

■ 全国大会の実施方法について

第47回全国大会は、対面・オンラインのハイブリッドで実施できるように調整を進めております。ハイブリッドの導入に伴い、大会のプログラムが例年とは異なる構成になっておりますので、ご注意ください。詳細な実施方法につきましては、決まり次第アナウンスいたします。

なお、今後のコロナウイルスの感染拡大に応じて、すべてオンラインに変更する可能性もありますのでご注意ください。オンライン開催に変更する基準については、大会ウェブサイトに掲載する予定です。

■ 大会日程 (予定) ※大会日程は変更される可能性があります。

8月24日(水)	
9:30～12:20	プレカンファレンス
12:20～13:30	昼休み
13:30～13:40	オープニング (会長・開催校挨拶)
13:40～14:00	各種表彰
14:30～15:20	特別講演
15:50～17:50	メインイベント
8月25日(木)	
9:00～10:10	インタラクティブセッション(*)
10:20～11:30	学生研究特別セッション(*)
11:30～13:10	昼休み
13:10～14:35	一般・企画セッション(1)
14:50～16:15	一般・企画セッション(2)

8月26日(金)	
9:20～10:45	一般・企画セッション(3)
11:00～12:25	一般・企画セッション(4)
12:25～13:25	昼休み
13:25～14:50	一般・企画セッション(5)
15:05～16:30	一般・企画セッション(6)
16:45～16:55	クロージング

(*)インタラクティブセッション・学生研究特別セッションはオンラインのみで実施する予定です。

(会場内からもオンラインで参加いただけるよう、一般・企画セッションの会場を開放する予定です)

■ 大会参加費

前期参加申込 ※締め切りました	後期・当日参加申込 (7月27日(水)～大会期間中)
一般会員：7,500円 学生会員：3,200円 非会員(学生以外)：10,800円 非会員(学生)：5,400円 論文掲載料：1,000円(論文一編につき)	一般会員：8,500円 学生会員：4,000円 非会員(学生以外)：12,000円 非会員(学生)：6,500円
※全国大会当日、またはそれ以前に入会手続きを行われる場合は、会員料金でお申し込みいただけます。	

ハイブリット開催に伴い、第47回大会の前期参加申込以降の申込は後期・当日参加申込の金額が適用されます。後期・当日参加申込はクレジットカードのみ対応しますのでご注意ください。

Web論文集公開日との兼ね合いによりお支払い後のキャンセルは8月14日(日)までとなりますのでご了承ください。(8月15日(月)以降に新規お申し込みされた場合は返金には応じられません。)

参加費等はいずれも税込みです。支払いの詳細は、大会Webサイトをご覧ください。

プレカンファレンスの参加は自由です。これらのみに参加する場合は、大会参加登録、および参加費の支払いは不要です。

■ プログラム

プログラムは変更される可能性があります。最新の状況は大会Webサイトに掲載いたします。

○ 特別講演 (8月24日(水) 14:30～15:20)

「インクルーシブ教育システムの推進に向け教育・学習支援技術に期待すること」

深草 瑞世 (文部科学省初等中等教育局特別支援教育課・特別支援教育調査官)

○ メインイベント (8月24日(水) 15:50～17:50)

「ソーシャル・インクルージョンを実現する社会デザインとインクルーシブ教育について考える」

登壇者：

小川 修史 (兵庫教育大学大学院学校教育研究科・准教授、一般社団法人日本障がい者ファッション協会・CKO)

平林 景 (株式会社とっとりリンク・代表取締役、一般社団法人日本障がい者ファッション協会・CBO)

谷口 藍 (一般社団法人Next Cure 放課後等デイサービスかしのき教室・代表理事、gaia株式会社・取締役、一般社団法人日本障がい者ファッション協会・CCO)

山根 寿豊 (株式会社グリーン・エナジー・代表取締役、一般社団法人日本障がい者ファッション協会・CHO)

- プレカンファレンス（8月24日（水）9:30～12:20）
 - PC1 エージェンシー育成のための社会情動的スキルワークショップ
 - PC2 JSiSE OB・OGが語る会 ～学会，研究を通じて学んだこと，仕事で求められていること～
 - PC3 誰のための「教育システム情報学マップ」？ - 「問いの体系化」を軸に考える -
 - PC4 反転が生み出す論文執筆のブレークスルー - ディスカッションベースの論文投稿ファシリテーション -
 - PC5 高校生・大学生のファシリテーションによるICTを活用した高大連携事例
 - PC6 教育支援スマホアプリのハンズオン
- 企画セッション（8月25日（木）13:10～14:35, 14:50～16:15, 8月26日（金）9:20～10:45, 11:00～12:25, 13:25～14:50, 15:05～16:30）……………（34件）
 - 1. エージェンシー育成のための社会情動的スキルに関する研究（3件）
 - 2. ニューノーマル時代における先進的な学習状態推定と学習体験創出（9件）
 - 3. データサイエンス教育における授業設計（6件）
 - 4. 近未来の医療者教育（3件）
 - 5. 教育DXと実世界指向学習環境（7件）
 - 6. 「答えのない課題の解決に挑む学び」を支える教育システム・デザイン（6件）
- 学生研究特別セッション（インタラクティブ（ポスター・デモ）発表）……………（13件）
- 一般セッション（インタラクティブ（ポスター・デモ）発表）……………（15件）
- 一般セッション（口頭発表）……………（96件）
 - 1. 先進的学習支援（21件）
 - 2. 学習環境デザイン・ブレンディッドラーニング・アクティブラーニング（5件）
 - 3. 分析技術（4件）
 - 4. デバイス活用・マルチメディア活用（4件）
 - 5. プログラミング教育（6件）
 - 6. 遠隔教育・協調学習（6件）
 - 7. 高等教育（2件）
 - 8. 学習評価・アセスメント（4件）
 - 9. ソーシャルメディア活用（3件）
 - 10. スキル学習（4件）
 - 11. ユーザインタフェース（9件）
 - 12. プラットフォーム開発（3件）
 - 13. 語学教育（6件）
 - 14. 学習者特性・行動分析（8件）
 - 15. 授業設計・インストラクショナルデザイン（4件）
 - 16. 教科教育・防災教育・情報技術教育（4件）
 - 17. 特別支援教育・初等中等教育（3件）

■ 講演論文集について

第45回大会よりCD-ROMでの配布を廃止し、Webによる配布のみとしております。Web版の講演論文集は、2022年8月15日(月)に大会参加者のみに公開され、2023年3月1日(水)に一般公開されます。

■ 大会事務局

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
 一般社団法人 教育システム情報学会 全国大会委員会
 E-mail : jsise-desk@bunken.co.jp



全国大会プレカンファレンス 反転が生み出す論文投稿のブレークスルー ーディスカッションベースの論文投稿ファシリテーションー

担当者： 学会誌編集委員会

開催日時： 2022年8月24日(水) 大会2日目 9:30~12:20

オーガナイザ： 瀬田和久(大阪公立大学), 村上正行(大阪大学), 後藤田中(香川大学),
田中孝治(金沢工業大学), 高木正則(電気通信大学),
山崎治(千葉工業大学), 近藤伸彦(東京都立大学), 山元翔(近畿大学)

申込締め切り： 2022年8月5日(金)

論文の投稿や査読について、お悩みや不安、疑問はないでしょうか？本学会の論文カテゴリは「一般論文」、「実践論文」、「ショートノート」、「実践速報」の4つです。たとえば、「論文を投稿したいがカテゴリの違いが判然としにくい」、「実践論文が満たさなければならない基準って何だろう?」、「研究を進める上でのポイント・ヒントを知りたい」、「査読における考え方を整理したい」など、投稿や査読に関するあらゆるお悩み・不安について、編集委員と参加者が知恵を出し合う対話を通して論文投稿のブレークスルーを見出します。

本セッションは、「論文執筆チュートリアル」、「論文投稿ファシリテーション」の2部構成です。前半では、執筆要領改訂チュートリアルとして、改訂により論文種別毎の新規性、有用性、信頼性評価の観点により明確にされる形となった点など、改訂内容についてご紹介します。学会誌では、一般系論文(一般論文、ショートノート)と実践系論文(実践論文、実践速報)を発行していますが、この度、この2つのタイプの研究論文の特徴、位置づけをより明確にする目的で2022年4月に執筆要領改訂を行いました。https://www.jsise.org/journal/pdf/subguide/sub_guide_202204.pdf

後半では、これまででもご好評いただいている、論文投稿に関わる相談会を、対面の相談・議論に臨む“反転 + ディスカッション”ベースで実施いたします。本年度も、相談会の開催はオンライン開催となります。また、論文執筆に関わるチュートリアルのコンテンツをプレカンファレンスの開催に先駆けて事前に視聴いただき、発表スライドを作成いただきます。投稿を予定しておられるなど、ご相談を希望される方(Advisee)の手順は下記の通りです。ご応募お待ちしております。

1. 【事前】 次の URL から応募ください (<https://forms.gle/snfobXvzEKvCKiPa6>)
2. 【事前】 締め切り後にお知らせするチュートリアルを閲覧
3. 【当日】 投稿予定の研究や執筆上の懸案を発表
4. 【事後】 論文投稿(可能であれば)

※ 希望者多数の場合は学会誌編集委員会で選定します。選定後、相談の参考にさせていただくため、事前に発表スライド等の資料の提出をお願いしております。なお、当日現地大会よりご参加いただく方も、Zoom を用いてご参加いただきます。プレカンファレンス会場にお越しいただく場合は、ご自身のイヤホンマイクと Zoom の利用可能な端末を持参いただきますようお願いいたします。

問い合わせ先： 後藤田中(香川大学) gotoda.naka@kagawa-u.ac.jp



科研費申請支援制度（2022 年度夏期）のご案内

担当者： JSiSE 人材育成委員会

教育システム情報学会では、次代を担う若手研究者の自立、研究活動の活性化を積極的に支援することを主旨として、科研費申請支援制度を試行します。本学会の理事等を中心に、当該分野の科研費審査や獲得経験を有する複数のシニア研究者（匿名）が、提出された申請書に対して、主張点や論旨の明確化、焦点化など、審査員に上手に伝えアピールする視点から、採択に向けたコメントを書面で提供するものです。申請書評価の多様な見方に触れて頂くためにも、学会としてまとめることはせずコメントータからのコメントをそのまま提供します。これらを参考材料として申請者ご自身の判断の下で取捨選択しての申請書のブラッシュアップに役立てて頂く主旨のものです。学会およびコメント提供者は申請内容について守秘義務を負うものとし、なお学会およびコメント提供者は採択に関する責任を負うことはできませんので、予めご承知おきください。

本制度は若手研究・基盤研究（C）および研究活動スタート支援を支援対象とします。主として以下の分野を対象にしますが、JSiSE が学際的な領域を対象にしていることから、他の分野でもできるだけ柔軟にお受けしたいと考えていますので、下記問い合わせ先までご相談ください。

・夏期支援種目：

- ・若手研究
- ・基盤研究(C)（ただし、若手研究の応募資格を有する方に限る※）

※若手研究の応募資格は令和3年実施の公募（令和4年度公募）の際に変更になりました。

詳しくは学術振興会Webサイト等をご参照ください。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/06_jsps_info/g_210709_2/data/siryou2.pdf

（研究活動スタート支援は春期の支援を予定しています。）

・分野：

- ・「大区分A」「中区分9：教育学およびその関連分野」
 - ・09070 教育工学関連
 - ・09080 科学教育関連
- ・「大区分J」「中区分62：応用情報学およびその関連分野」
 - ・62030 学習支援システム関連

・申請者は学会員であることが必要です。

スケジュールは以下の通りです。ご所属機関により提出時期が異なることを踏まえ、提出期間に幅を持たせています。

○エントリー

若手研究および基盤研究 (C) : 8月1日より

下記提出先まで電子メールにて、 代表者氏名(所属)・タイトル・応募種目・分野(大区分, 小区分)をお知らせください.

サブジェクトは「JSiSE 科研費申請支援」を含む文字列でお願いします.

※エントリーがなくても申請は随時受付いたしますが, 事前にエントリー頂ければメンターに書類を迅速にお送りできますので, 結果の返送も早くなります.

○申請書提出

若手研究および基盤研究 (C) : 8月上旬 ~ 申請者所属機関の申請書類締め切りの2週間前まで

申請書のファイル (MS-Word または PDF 形式) を下記提出先までお送りください (予算明細などの詳細まで埋めていただく必要はありませんが, よりよいコメントを提供するために, ある程度内容が固まってからご提出いただくのが望ましいと思われます). 提出いただき次第, コメントータに申請書を送付します.

○コメントのお返し

【各メンターから提出があり次第, 随時コメントをお返します.】

事前エントリーがあった場合申請書提出から1週間前後, ない場合10日前後の返信を予定しておりますが, 事情により遅れる可能性もございますので余裕をもってお申込みください.

エントリー, 申請書提出およびお問い合わせ先

JSiSE 人材育成委員会 (jsise-y-support@googlegroups.com)



Information and Technology in Education and Learning (ITEL)

論文募集 [<https://www.j-itel.org>]

日本教育工学会 (JSET) との合同英文誌 ITEL (Information and Technology in Education and Learning, <https://www.j-itel.org>) Vol.3 への掲載原稿を募集しています。この ITEL では、我が国における教育工学・教育システム情報学の国際的な発信力を強化するとともに、国際的な共同研究・研究交流のプラットフォームになることを目指しています。ITEL は、J-STAGE をプラットフォームとしたオープンアクセスジャーナルです。研究対象は、教育システム情報に関連した領域全般はもちろん、様々な教授学習場面のための方法・技術に関する基礎研究・開発研究・実践研究等も含まれます。投稿後、原則、7 か月以内に 2 回の査読が終了するように配慮しています。短期間で、革新的な研究成果、ユニークな実践等を世界に向けて発信するために活用していただければ幸いです。学位取得を目指されている方や留学生のみなさんからのご投稿もお待ちしております。

- 論文種別： 一般論文 (Regular Paper, 基本 8 ページ),
実践論文 (Practice Paper, 基本 8 ページ),
システム開発論文 (Development Paper, 基本 8 ページ),
ショート論文 (Short Paper, 基本 4 ページで最長 6 ページまで)
<これまでのショートノート (Short Note) と実践速報 (Report on Practice) を含みます>
- 投稿締切：1 年中投稿を受け付けています。
- 投稿要件：
 - 論文は他学会において査読中でないこと、そして、その主要部分が未発表であること。ただし、国際会議、学会の大会、研究会等で口頭発表した内容をまとめたものは投稿することができます。
 - 投稿者は本会会員である必要はありませんが、本会会員あるいは JSET 会員である場合には掲載料に会員の価格が適用されます。投稿者が 2 名以上の連名の場合は、そのうち少なくとも 1 名が会員であれば、掲載料に会員価格が適用されます。
- 原稿執筆要領：ITEL Web サイトに、執筆要領 (Author Guidelines) 等がアップされています。
- 投稿方法：< [ITEL 電子投稿システム] https://iap-jp.org/j-itel/journal_e/ >
 - ITEL Web サイト上から、電子投稿システムにログインして投稿を行って下さい。
 - 初めて電子投稿システムを利用する場合は、まず利用者用 ID の発行手続きを行って下さい。
 - 投稿論文は、論文執筆用テンプレートファイルを用いて PDF ファイルに出力して提出して下さい。
 - 投稿論文は、投稿前にできるだけ英文校正 (Proofreading) を受け、証明書提出を推奨しています。
- 査読方法：
 - 投稿論文の査読は、JSiSE 英文誌と同様に、シングルブラインド制で行われます。
 - 査読者は 2 名で、査読回数は 2 回となります (著者照会は 1 回のみ)。
 - 評価項目は、Originality (新規性)、Usefulness (有用性)、Reliability (信頼性)、Presentation (明瞭性) の 4 項目となり、JSiSE 英文誌と異なり、査読中に投稿論文の種別変更はありません。
 - 投稿者の希望に基づき、JSiSE 英文誌と同様、日本語で査読コメントを受けることもできます。



2022 年度研究会開催スケジュール

担当者： 研究会委員会

2022 年度の年間スケジュールは下記の通りです。

詳細は、学会ウェブページ (<https://www.jsise.org/society/committee.html>) をご覧ください。

回	テーマ	開催日	会場	申込締切	原稿締切
第 1 回	DX 時代に向けた学習環境 の変革／ヘルスケア分野 の DX 人材育成／一般	終了	オンライン開催	終了	
第 2 回	ICT を活用した学習支援 と教育の質保証／一般	終了	北星学園大学 (北海道札幌 市)	終了	終了
第 3 回	対面・オンライン・ハイ ブリッド授業支援／一般	2022 年 9 月 30 日 (金)	オンライン開催	終了	2022 年 8 月 25 日 (木)
第 4 回	スキル開発とその支援技 術／一般	2022 年 11 月 4 日 (金), 5 日 (土)	徳島大学	2022 年 9 月 15 日 (木)	2022 年 10 月 6 日 (木)
第 5 回	教育 DX と実世界指向学習 環境／一般	2023 年 1 月 (予定)	拓殖大学 (文京 キャンパス)	未定	未定
第 6 回	学校段階間での接続を意 識したデータサイエンス 教育／一般	2023 年 3 月 (予定)	北九州市立大学	未定	未定
特集	答えのない課題の解決に 挑む学びを支える教育シ ステム・デザイン (仮)	2023 年 3 月 (予定)	北九州市立大学	未定	未定

研究会全般に関するお問い合わせは、学会事務局までお願いいたします。



2022 年度 第 3 回研究会 開催案内

担当者： 安間 文彦（サイバー大学）、三好 康夫（高知大学）、小西 達裕（静岡大学）

- テーマ： 対面・オンライン・ハイブリッド授業支援／一般
- 開催日時： 2022 年 9 月 30 日（金）
- 開催場所： オンライン開催
- 発表申込締切： 2022 年 8 月 4 日（木）締切済
- 原稿提出締切： 2022 年 8 月 25 日（木）
- 研究会 CFP: https://www.jsise.org/society/committee/2022/CFP_3rd.html

■趣旨：

コロナウイルス感染症対策で実現したオンライン授業等では、従来の対面授業では得られない教育効果も認められています。アフターコロナの新しい生活様式が重視される中、教育においても今後は、対面での授業だけでなくオンライン授業も取り入れた新しい教育の形式が重要になってくると考えられます。オンライン授業の実践においては、教師の ICT 機器の操作スキルは差が大きく、学習者側も操作スキルの差だけでなく機器やネットワークの環境にも違いがあることから、当初は手探り状態の現場の多くが混迷状態になっていましたが、長期化したコロナ禍の影響の中で、教員や学生共に少しずつオンライン授業にも慣れ、授業実施に関する知見が蓄積されたと思われまます。

そこで、第 3 回研究会では、昨年度に引き続き本年度も「対面・オンライン・ハイブリッド授業支援／一般」をテーマに、授業現場や学校教育を支える今後の教育システムのあり方を議論したいと考えております。オンライン授業はオンデマンド型とリアルタイム型に大別することができ、それぞれの特徴を考慮して使い分けられています。また、対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型授業も注目され、様々な教育現場で実践されています。一方で、授業形態が多様化したことにより、出席管理やインタラクション、グループワークなどは授業形態ごとにやり方を変えなければならないなど、教師の負担が増大している側面も無視することはできません。特に成績評価において、学習者の様子の把握や公正な試験実施がオンラインで困難であることは、非常に悩ましい問題の一つです。そこで、このような問題の解決を目的とした支援システムの開発や支援の取り組みのような、多様化した授業形態の支援に関する研究発表を幅広く募集いたします。教師を支援対象にした研究に限らず、学習者や学校職員、保護者などを支援対象とした研究の発表もぜひご応募ください。その他、教育・学習支援システムに関する幅広い分野の発表も歓迎いたします。職場の同僚や共同研究をしているグループなど、お誘い合わせの上奮ってご参加下さい。

■発表時間等：

発表時間は 25 分（発表 17 分、質疑 7 分、入れ替え 1 分）を予定しております。

■発表申込および研究会への参加方法：

研究発表および研究会参加には、研究報告の年間購読（4,000 円／年）または各回の研究報告の購入（1,000 円／回）が必要となります。ただし、聴講のみを希望する学生会員は研究報告を購入する必要はありません。

Zoom 開催の場合のアクセス先は、参加申込時に送信されるメールに記載されます。

○発表者

発表申込(2022 年 8 月 4 日まで)および原稿提出(2022 年度 8 月 25 日まで)は、下記「申込者ログイン」よりお願いします。

また、発表者も事前参加申込（研究報告の購入）が必要です。なお、事前参加申込は 2022 年 8 月 26 日 9 時に開始します。事前参加申込についても、「申込者ログイン」から手続きしてください。

○聴講のみを希望する学生会員

聴講のみを希望する学生会員は、「申込者ログイン」での手続きは行わず、下記の問い合わせ先まで直接メールでご連絡ください。

○上記以外の参加者

研究会の参加には事前参加申し込み（研究報告の購入）が必要です。申込は 2022 年 8 月 26 日 9 時に開始します。開始時刻以降に、下記「申込者ログイン」から手続きしてください。

申込者ログイン：<https://iap-jp.org/jsise/course3/login.php>

■研究報告執筆フォーマット：

研究報告執筆要領：<https://www.jsise.org/society/pdf/format.pdf>

研究報告見本：<https://www.jsise.org/society/pdf/sample.pdf>

研究報告ひな形：<https://www.jsise.org/society/doc/sample.docx>

オンライン講演申込・原稿投稿方法：<https://www.jsise.org/society/committee/pdf/manual.pdf>

■お問い合わせ先：

安間文彦（サイバー大学、第 3 回研究会担当委員）

E-mail：[fumihiko_anma\[at\]cyber-u.ac.jp](mailto:fumihiko_anma[at]cyber-u.ac.jp)（[at]の部分をも、「@」に変えて下さい。）



2022 年度 第 2 回研究会開催報告

担当者： 金子 大輔(北星学園大), 不破 泰(信州大), 小松川 浩(公立千歳科学技術大)
野崎 浩成(愛知教育大), 布施 泉(北海道大)

■テーマ：ICT を活用した学習支援と教育の質保証／一般

■開催日：2022 年 7 月 16 日（土） 9:55-16:25

■会場：北星学園大学（北海道札幌市）

■概要：

2022 年度の第 2 回研究会は、7 月 16 日（土）、北星学園大学にて「ICT を活用した学修支援/一般」というテーマで開催されました。久しぶりの対面での開催となったこともあり、たいへん多くの発表者・参加者に恵まれました（発表 27 件、参加者 52 名）。会場のあちこちで久しぶりに会った挨拶をする様子を見て、そして非常に活発な質疑応答の様子を見て、やはり対面開催はいいなと感じました。開催にあたり、ご尽力くださったみなさんに感謝申し上げます。

内容については、本研究のテーマである ICT を活用した学習支援と教育の質保証に関する発表のほか、コロナ禍を通じて一般的になって来たオンラインで行われる授業に関する発表もありました。その他、ロボットや OER、語学など多様なテーマでの研究発表が行われました。なお、今回発表されたタイトルは以下の通りです。

- プログラミングロボットを用いた協調学習の実践と展開可能性
- 食育支援システムの開発と効果 -間食機能と 3 日分対応のシステムの効果検証-
- オンライン授業における学習者の状況の視覚的・感覚的な把握を支援する機能の提案
- ロボット講義におけるインタラクションデザイン
- 学習者のウェルビーイングを高めるオンデマンド授業の実践
- シラバスデータを活用した用語からの科目推薦手法の検討
- OER のファインダビリティ向上のためのシステムの設計と実装
- 講義アーカイブにおける関心領域の自動推定手法の提案
- ハイフレックス型授業における大学生の学習行動と授業形態に応じた権限一覧表の作成
- 線形代数における形成的評価を目的とするオンライン演習問題について
- 社会福祉士養成教育の相談援助演習における ICT 活用の成果と今後の課題
- 衛生的拭き取り方法の慣性センサによる検出・分類 -公衆衛生教育への基礎的検討-
- 情報科教育法の履修条件にかかわる一考察 (3)
- 遠隔 Bereavement Care における共感成立過程の解明に向けたマルチモーダル情報分析ツールの検討
- MOOC プラットフォーム edX 上で獲得される学習データの可視化基盤の構築
- 外部アセスメントテストを利用した学生の成長の可視化の一事例

- ナンバープレースパズル初学者を対象とした推論規則の学習支援システムの提案
- スポーツの戦術獲得支援のための熟達者のプレイ動画提示システム
- 身体スキル獲得のためのフォーム改善意識の利活用基盤の構築
- 初修フランス語デジタル教科書と連携するクラスノート機能の構想
- 高専における英語学習者の動機づけと学力推移の関係についての調査研究
- 機械翻訳を活用した日韓言葉対照表の分析
- 対話ロボットの遠隔操作形態による面接練習での心理的影響の検討
- Moodle とニューラル音声合成を組み合わせた日本語学習教材開発とその学習効果
- ICT と STEAM を組み合わせた医療系大学における数理データサイエンス AI 教育（応用基礎レベル相当）
- 顔情報を用いた個々の子どもの特性を考慮した授業参加状態の推定
- 機械学習モデリングを用いたコンピテンシー評価の分析



「ラーニングイノベーショングランプリ 2022」審査結果発表

産学連携委員会 委員長 松浦 健二

JSiSE が共催しているラーニングイノベーショングランプリ 2022 (LIGP2022) について、二次審査（最終審査）が行われ、7月1日に審査結果が発表されました。審査結果は、以下の通りとなりました。

■最優秀ラーニングイノベーション賞（ジンジャーアップ賞）

- ・持続可能なイノベーションを実現するデジタルものづくり人材育成
北九州工業高等専門学校 Kuchii-Lab.

■優秀ラーニングイノベーション賞

- ・VR と香り発生装置による古典文学上の「恋」ができるシステム
共立女子大学 文芸学部 谷田貝研究室 日本文学研究班
- ・プレゼンテーション再体験によるセルフレビュー支援システム
電気通信大学 柏原研究室 VR チーム

■奨励賞

- ・オンライン講師画面のディープフェイクによる見かけの操作と授業参加への積極性の検証
東京大学 バーチャルリアリティ教育研究センター
- ・大学数学における学習意欲検査と学習データを用いた内省を促す相対比較フィードバック
岩手県立大学 MinaLab
- ・デジタル刺繍ミシンを活用したプログラミング学習のためのツール開発
鎌倉女子大学・青山学院大学 NEO CWR

■特別賞：UMU ラーニングテクノロジー賞（提供：ユームテクノロジージャパン株式会社）

- ・学習者の注意維持をインタラクティブに促すロボット講義と講義改善
電気通信大学 柏原研究室学習支援ロボットチーム

3月16日に応募受付を開始し、5月23日の締切りまでに32件の応募がありました。これらについて、産業界の7名の審査委員が審査を行い、各賞を選定しています。二次審査は、5分間のプレゼンテーション動画による発表で行われました。審査は、【1】産業界から見た独創性・斬新性（20点満点）と【2】社会的価値（a: 教育・学習に与えるインパクト（10点満点）、b: 発想スケールの大きさ（10点満点）、c: 実用化された際の波及効果（10点満点））の各観点で採点（50点満点）し、審査結果に基づいた得点集計により7月1日に各賞が発表されました。

7月13日に開催された展示会「ラーニングイノベーション2022」（主催：日経新聞社、日経BP、共催：日本イーラーニングコンソシアム（eLC）、ラーニングイノベーションコンソシアム（LIC））で受賞者プレゼンテーション・表彰式が実施されました。なお、当初、一般公開が予定されておりましたが、

新型コロナウイルス感染の急拡大の影響を受け、受賞チームのみの限定入場で実施されました。

ラーニングイノベーション2022は、<https://expo.nikkeibp.co.jp/hc/exhibit/2022/> をご覧ください。

ラーニングイノベーショングランプリは、学術界での学習・教育におけるラーニングテクノロジーに関する研究成果やその芽生え期の研究を産業界が評価する、年に一度のコンペティションです。大学等の研究は、普段アカデミックな評価を受ける機会が多いのですが、本イベントでは産業界も普段目を向けていないような研究や、産業界から見て価値のある潜在的な研究も評価されます。応募対象は、高等教育機関（大学・大学院・高等専門学校等）の研究室（チーム）です。来年も開催いたしますので、皆さま奮ってご応募ください。

本グランプリの詳細及び各受賞者の応募内容は、<https://ligp.gingerapp.co.jp> をご覧ください。

【開催概要】

主催：ラーニングイノベーションコンソシアム（LIC）

共催：教育システム情報学会（JSiSE）、日本イーラーニングコンソシアム（eLC）

協賛：日本情報科教育学会、日本教育工学会、人工知能学会、情報処理学会 CLE 研究会、電子情報通信学会教育工学研究会、学習分析学会

協力：日経 BP、ジンジャーアップ（公式サイト）

運営：ラーニングイノベーショングランプリ実行委員会

プラチナスポンサー：ジンジャーアップ

ゴールドスポンサー：サイコムブレインズ、デジタル・ナレッジ、WARK

ネーミングライツスポンサー：Moodle Pty Ltd/イーラーニング、ユームテクノロジージャパン

【審査委員等】

■審査委員

綾部 貴淑 : LIC/KIYO ラーニング株式会社 ※審査委員長

井手 啓人 : 株式会社ジンジャーアップ

鎌田 純子 : 株式会社ボイジャー

小橋 岳史 : 株式会社日立製作所

中嶋 竜一 : 株式会社デジタル・ナレッジ

長瀬 昭彦 : 株式会社 WARK

橋本 賢一 : 株式会社富士通ラーニングメディア

■実行委員

川口 泰司 : LIC/サイコム・ブレインズ株式会社 ※実行委員長

加藤 憲治 : LIC/日本イーラーニングコンソシアム

前田 宏 : LIC/株式会社ジンジャーアップ

越智 洋司 : JSiSE/近畿大学

東本 崇仁 : JSiSE/東京工芸大学

米谷 雄介 : JSiSE/香川大学



教育システム情報学マップ作成WGのご紹介と 皆様へのご周知

担当者： 教育システム情報学マップ作成WG

教育システム情報学会（JSiSE）は、2024年に設立50周年を迎えます。これにともない、現在、50周年記念事業として様々な企画が進められています。その一環として、蓄積された問いを体系化することで教育システム情報学マップを作成することを計画しており、2021年11月より、本学会の設置する教育システム情報学マップ作成ワーキンググループ（以下、本WG）によるプロジェクトとして推進することとなりました。本WGの取り組みは、学際領域である教育システム情報学の価値を学会内外に示し、プレゼンスを高める意味合いを持つ重要な取り組みと位置づけています。

教育システム情報学マップを作成するための体系化の視点、軸は多様です。プロジェクトの性質上、従事されている研究領域が多様でかつ、学会内外の諸活動で様々な役割を担っておられる若手研究者でWGメンバーが構成されています。近藤（WG長）、田中、山元をコアメンバーとし、あわせて10名がWGに属しています（後述の解説特集の記事一覧にある著者10名がメンバーです）。

一方、本プロジェクトは、教育システム情報学およびその周辺領域に携わるあらゆるステークホルダーに開かれたものでありたいと考えています。その意味で、本分野にかかわるすべての方が本WGの「11人目のメンバー」であると考え、教育システム情報学の「十一の心」＝「志」を芯に据えたWGとして、この壮大な取り組みに挑むことを目指しています。本学会員のみならず、それぞれにお持ちの「教育システム情報学」およびそこで扱われる「問い」についてのお考えをもとに、ぜひ本プロジェクトを身近なものとして（「11人目のメンバー」として）感じていただき、適宜イベントにご参加いただいたり、さまざまな形でご意見をいただいたりすることを通して、本プロジェクトにご関与いただければ幸いです。

本WGではこれまで、本WGメンバーの捉えるマップについての知見を収集するために、学会誌Vol. 39, No. 2（2022年4月発刊）において、本WGメンバーによる解説特集を企画・執筆いたしました。また、2022年度全国大会のプレカンファレンスでは、「11人目のメンバー」である皆様には是非ご参加いただき、「誰のために」「どのような問いの体系化」をすることが重要かを議論したいと考えております。ぜひご参加を検討いただければ幸いです。以下に、これらについての概要を記します。

解説特集：「私の教育システム情報学マップ：問いの体系化に向けて」（Vol. 39, No. 2）[\[リンク\]](#)

最初の活動として、本WGのメンバー全員が、自身の考える教育システム情報学マップについて、考察を提供しています。本分野を多面的に捉えていただく上で、一助となりましたら幸いです。

1. 大崎理乃（武蔵野大学）、教育システム情報学マップ（問いの体系化）に向けたアプローチの検討— 一知の創造プロセスとしての学会論文誌の分析— [\[リンク\]](#)
2. 米谷雄介（香川大学）、「教育システム情報学マップ」のUXデザイン [\[リンク\]](#)
3. 近藤伸彦（東京都立大学）、「問い」でつながる教育システム情報学研究 [\[リンク\]](#)
4. 高橋聡（関東学院大学）、教育システム情報学会のフロンティア [\[リンク\]](#)

5. 田中孝治（金沢工業大学），教育システム情報学=Educational Systems and Information Science? [\[リンク\]](#)
6. 田和辻可昌（早稲田大学），私の考える教育システム情報学マップ—問題逆遷移アプローチによるマップ作成の検討— [\[リンク\]](#)
7. 東本崇仁（東京工芸大学），私の教育システム情報学マップ…を作るに至るまでの話 [\[リンク\]](#)
8. 林佑樹（大阪公立大学），インタラクティブな教育システム情報学マップのメタ視点からの構想 [\[リンク\]](#)
9. 光原弘幸（徳島大学），人で未来を紡ぐ教育システム情報学マップにむけて [\[リンク\]](#)
10. 山元翔（近畿大学），Learner Experienceの視点からの教育システム情報学 [\[リンク\]](#)

第 47 回 教育システム情報学会 全国大会 プレカンファレンス：誰のための「教育システム情報学マップ」？ —「問いの体系化」を軸に考える— [\[リンク\]](#)

続いての活動は，2022年度全国大会のプレカンファレンスになります。いよいよマップの構築に取り組むにあたり，11人目のメンバーである皆様のお力をお借りし，「誰のための」マップが必要か，どのようなマップが望まれるのか，そしてそのためには「どのような問いの体系化」がなされるべきか，といった観点について議論していきたいと考えております。学会会場，オンラインのハイブリッドでの開催を予定しておりますので，気軽に，是非ご参加を検討ください。



第4回リサーチ・コ・コ・コモンズ開催のお知らせ

担当者： 教育システム情報学会 関東支部

昨年度に引き続き、関東支部主催にて連携（collaboration）による新たな学びの共創（co-creation）を実現するためのイベント「リサーチ・コ・コ・コモンズ」を開催いたします。今年度も学生の皆さまに自身の研究の魅力を再発見していただくための企画です。

学外の研究者・学生との議論を通じて、自分でも気付いていなかった研究の魅力を再発見して、あなたの研究をもっと伸ばしてみませんか？

開催日時：12月3日（土）10:00～17:00（予定）

場所：早稲田大学早稲田キャンパス（予定／ハイブリッド）

対象：他大学の方々との交流を通じて自身の研究を見つめ直したい学生

※ 関東・東北地区以外の学生の方の参加も大歓迎です。

参加費：無料

<プログラム>

第1部：ベテラン研究者からの熱いメッセージ

第2部：魅力 Aware / Share / Deeper セッション

研究紹介

自身の研究の魅力を参加者に伝えよう

伝え方は自由（PowerPoint・ポスター・口頭のみ）中間発表などで使ったものを流用してもOK！

参加者とのディスカッション

学外の研究者・学生との建設的な議論を通じて、自分でも気付いていなかった研究の魅力を再発見しよう

発表募集は10月下旬から行う予定です。

次号のニューズレターで詳しくお知らせ致します。



研究会報告年間購読の申し込みについて

研究会報告は、2016年度からは印刷媒体での研究会報告は廃止し、オンライン上でタイムリーかつオンデマンドな閲覧が可能となるように、研究会報告を電子化しています。保管などの手間もなく、大変便利に活用できるようになっております。

是非、研究会報告の「年間購読」のお申し込みをご検討いただければ幸いです。研究会当日も電子媒体として販売する予定ですが、年間購読がお得になっております。

- ・年間購読:4,000円(定例研究会年6回、特集研究会1回、計7回分を含む)
- ・当日販売:1冊1,000円

新規での「年間購読」申込みにつきましては、年会費をお支払いいただく前に会員種別変更申込をお願いします。以下の手順でお申し込みください。すでに年間購読をいただいている方は手続き不要です。

- 1) 年会費納入手続きの前に、下記フォームにて事務局 (secretariat@jsise.org) まで年間購読申込をしてください。

=====
※研究会報告年間購読希望
会員番号 (お分かりであれば) :
お名前 :
所属 :
連絡先 e メールアドレス :
=====

- 2) 手続き終了後、事務局より会員種別変更完了のご連絡を差し上げます。
- 3) マイページから年会費と合わせて年間購読費をお支払いください。

※年会費納入後に「年間購読」を申込みご希望の場合は、事務局 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。年間購読の請求書をお送りし、会員種別変更の手続きを進めさせていただきます。

広報からのお知らせ



Twitter アカウントの紹介

2016年8月下旬より、全国大会開催に合わせて学会の公式 Twitter アカウントを開設しました。本アカウントは原則として当学会の広報を目的とした配信専用としております。本学会へのご質問・お問い合わせは、学会事務局（secretariat@jsise.org）へお願いします。

<https://twitter.com/JsisePr>

◇ 2022年7月26日現在、フォロワー数 262 アカウント



Facebook ページもご覧ください

教育システム情報学会の公式 Facebook ページを運用しています。本ページでは、論文・発表募集や本学会に関連するイベントの情報などをお届けしています。ぜひ、ご覧下さい。

Facebook ユーザの方は、ぜひ、「いいね」をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jsise.org/>

◇ 2022年7月26日現在、いいね 497 件、546 人フォロー

Twitter, Facebook への情報掲載の依頼などは学会事務局（secretariat@jsise.org）までお問い合わせください。



他団体 協賛・後援イベントのお知らせ

協賛「第24回日本感性工学会大会」

日時：2022年8月31日（水）～9月2日（金）

会場：オンライン開催

協賛「ヒューマンインタフェースシンポジウム2022」

日時：8月31日（水）～9月2日（金）

会場：関西大学

協賛「2022年度工学教育研究講演会」

日時：2022年9月7日（水）～9月9日（金）

会場：日本大学理工学部とオンライン開催

後援名義使用「日本情報オリンピック」

日時：2022年6月7日～2023年3月23日

使用方法：ポスター，チラシ，Webサイト

後援名義使用「オンラインラーニングフォーラム2022」

日時：2022年11月1日（火）～11月5日（土）

2022年11月8日（火）～11月10日（木）

会場：オンライン形式



国際会議のご案内

- 2022年8月開催

IFIP WCCE 2022: World Conference on Computers in Education

開催期間 : August 20-24, 2022

開催地 : Hiroshima

URL: <https://wcce2022.org/>

- 2022年10月開催

SITE Interactive 2022

開催期間 : October 5-6, 2022

開催地 : Online Conference

URL: <https://site.aace.org/online/>

- 2022年11-12月開催

ICCE 2022: 30th International Conference on Computers in Education

開催期間 : November 28 - December 2, 2022

開催地 : Kuala Lumpur, Malaysia

URL: <https://icce2022.apsce.net>



会費納入のお願い

学会の運営は皆様の年会費で支えられております。今年度の年会費が未納の方はご入金をお願いいたします。なお、10月以降に年会費が未納の場合、学会誌の送付が一時休止されます。入金確認後、入金日の翌月末までに今年度内の未送付分も合わせて学会誌の送付を再開いたします。3月末までに入金を確認できない場合は、未送付分の学会誌はお送りできなくなりますので、お早めにお手続きをお願いいたします。

URL <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページのURLは、会員情報管理システムの業務委託をしている株式会社国際文献社のものです。

- 「銀行振込」をご希望の方は、下記のいずれかの口座へお振込みをお願いいたします。

■振込先

◆ゆうちょ銀行

口座記号番号：00180-6-709632

加入者名：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

※他金融機関からゆうちょ銀行に振込む場合

銀行名：ゆうちょ銀行（金融機関コード：9900）

店名：〇一九 店（ゼロイチキョウ店） 預金種別：当座 口座番号：0709632

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆三菱UFJ銀行（金融機関コード：0005）

店名：上新庄支店（カミシンジョウ支店）

預金種別：普通 口座番号：0142708

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

◆みずほ銀行（金融機関コード：0001）

店名：茨木 支店（イバラキ支店）

預金種別：普通 口座番号：1399483

名義：一般社団法人教育システム情報学会

フリガナ：シャ)キョウイクシステムジョウホウガックイ

- 請求書・領収書（支払い後）は、マイページでオンライン発行できます。
- 請求書・領収書の郵送をご希望の方は、事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡ください。

※団体名でお振込みいただきますと、個人を特定できない場合がございますので、振込名に会員番号またはお名前をご入力いただくか、難しい場合は、振込内容を事務局までご連絡いただければ幸いです。
※所属が変わった方は、マイページにログインした際に、連絡先などを変更するようお願いいたします。

【過年度年会費を支払われていない方へ】

マイページでは、全ての年度の未納金額を合算した金額が請求されます。先に本年度以前の分のお支払いを希望される方は、先に郵送された払込用紙付請求書をご利用になるか、学会事務局（secretariat@jsise.org）までご連絡下さい。

※会費のお支払いが確認できない場合、学会からの送付物を停止させていただく場合があります。また、会員資格停止の手続きを進めさせていただく場合があります。

ご不明な点は、事務局（secretariat@jsise.org）までお問合せ下さい。

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター
Tel:03-6824-9376 Fax:03-5227-8631 Email : secretariat@jsise.org



事務局より



会員専用ページのご案内

URL : <https://bunken.org/jsise/mypage/Login>

※会員専用ページの URL は、会員情報管理システムの業務委託をしております株式会社国際文献社のものです。

■会員専用ページでは、以下のことができます。

1. 会員個人ページでの、現在の登録情報の確認・変更
2. 年会費納入状況の確認
3. 会費の納入、クレジット/コンビニ決済
4. パスワードの変更

会員種別、フリガナ、研究報告年間購読の登録等はマイページでは変更できませんので、お手数ですが JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡をお願い致します。

ログインには、ID とパスワードが必要です。

パスワードをお忘れになった場合は、上記ウェブサイトにて照会できます。何かご不明な点がございましたら、JSiSE 事務局会員窓口 (secretariat@jsise.org) までご連絡ください。

今後とも教育システム情報学会の活動にご理解ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



入会のご案内

入会をご希望の方は、下記のサイトよりオンライン入会申込フォームにアクセスしていただき、お申し込みをお願いいたします。

URL : <http://www.jsise.org/admission/index.html>

☆キャンペーン☆

※現在、本学会開催の研究会等で、会場にて新規お申し込みいただいた方には、入会金を無料にさせて頂くというキャンペーンを行っております。そちらも、合わせてご案内いただきますようお願いいたします。



新入会員のご紹介

下記の皆様が新しく入会されました。(2022年5月28日～2022年7月22日)

本学会での益々のご活躍を期待しております!

会員名	会員種別	会員名	会員種別
清水 俊匡	学生会員	市川 彩花	学生会員
藤原 宗幸	正会員(購読)	宮下 晃一	正会員(購読)
岡本 花奈乃	学生会員	崎山 琴音	学生会員
田中 遼	学生会員	森本 健次郎	学生会員
福岡 克也	学生会員	栗岡 陽平	学生会員
Gao Yufan	学生会員	井上 智生	正会員
本多 昂生	学生会員	米山 あかね	正会員
白石 誠	学生会員	濱崎 あゆみ	正会員
江口 文耀	学生会員	白木原 渉	正会員(購読)
佐藤 孝史	学生会員	新垣 知輝	正会員
石井 大智	学生会員	森村 吉貴	正会員

(計 22 名)